

## 第29回 くまもと景観賞の審査を終えて

くまもと景観賞審査委員長 伊東 龍一

平成28年4月の熊本地震の影響は大きく、生活の復旧を優先せざるを得ないこの年のくまもと景観賞は、事務局・審査員も大いに気になりながらやはり実施することができませんでした。平成29年を迎えても復旧には程遠い状況ではありましたが、実施することこそ復旧への道のりの第一歩と考えて今年の第29回の景観賞の実施に至りました。

今回の応募作品数は78件で、この8年間で最も多くなりました。過去に応募されたことのある作品もありましたが、今回が初めてという作品が85.9パーセントを占めたこと、例年に比べ一般の応募が多かったこと、地震への対応のなかで景観を考えた作品が目立ったことが今回の応募作品の特徴でした。

作品をよく見て、よく聞き、審査員相互によく議論をするという、この賞のこれまでの審査のよき伝統を継承しながら、結果として、大賞であるくまもと景観賞に1作品、部門賞である地域景観賞に1作品、緑と水の景観賞に2作品を、広告景観賞はありませんでしたが、奨励賞に3作品の計7作品を選ぶことができました。

くまもと景観賞は「NHK熊本放送会館」で、放送会館の機能を災害時でも確保しつつ熊本城へ向かうプロムナードに面する建物としての景観に十二分に配慮した作品です。地域景観賞は「下通NSビル(COCOSA)」が選ばれました。熊本一の繁華街にあって建物が面するすべての街路に対して「顔」を向けた賑わいを演出するデザインが見事でした。緑と水の景観賞の1つは「阿蘇水掛の棚田」で、耕作放棄地となっていた棚田を再生し、阿蘇五岳を望む景観を一層魅力あるものとししました。もう1つは「築地井手界限」で、加藤清正が開いたという用水路と周囲の田畑、点在する歴史的遺産がなす景観で、地元民から親しまれる景観でもあります。

奨励賞としたのは「十万山公園」、「菜の花カフェ」、「柿乃葉寿し本舗」です。いずれも素晴らしい取り組みであり、作品ですが、この賞にはよりプロジェクトとしての完成度を高めてほしい、あるいは取り組みを継続していただきたいという気持ちがこめられています。

実施することを第一の目標にした今回の景観賞でしたが、結果的には地震が景観への思いを強くうかがわせる作品を増やしたように思われます。今後も数多くの景観への真摯な取り組みがよりよい景観を生み出して、復旧をこえる復興となるよう願ってやみません。